

洲の豊かな自然と生物多様性を守るために、ザリガニやアサギマダラなどの生きもの調査や、ビオトープ田んぼでのもち米作り、小泊の保全林でのシイタケ栽培、東山中の植林事業、イノシシ対策など、数多くの保全活動を行っています。こうした活動が継続できるのも、多くの方からの寄付金と、さまざまな団体からの助成金という支えがあるからです。2016年度に実施した活動のいくつかを紹介したいと思います。



私たちNPO法人能登半島おらっちゃんの里山里海は、奥能登珠



発行：NPO法人  
能登半島おらっちゃんの  
里山里海  
発行日：2017年春



学舎開設記念で桜を植樹

ハウスをグランド隅に建て、大量発生を待っているところですが、今のところ気温が高いせいか思う

2016年は、1月の終わりに、シイタケのホダ木を入れてあるビニールハウスが倒壊するという悲劇に見まわれしました。それでもシイタケは、けなげにも成長し、保全林で栽培しているのも合わせるのかなり売り上げに貢献してくれました。11月には二代目のビニール

	内容	参加人数
3月12日	シイタケ原木に菌入れ	9名
3月13日	鉢ヶ崎クロマツ植林	57名
3月26日	シイタケのホダ木移動	6名
4月9日	とうもろこしの種まき	7名
4月16日	とうもろこし畑にマルチ設置	3名
4月23日	とうもろこしの種まき	6名
4月30日	とうもろこし植え替え	6名
5月14日	とうもろこし植え替え	8名
5月28日	小泊ビオトープで畦草刈り	1名
6月4日	小泊ビオトープで田植え	6名
6月25日	小泊ビオトープで草取り	10名
7月23日	シイタケの原木起こし	4名
9月24日	ハザの修理と草刈り	3名
10月10日	小泊ビオトープで稲刈り	5名
10月15日	小泊ビオトープで稲刈り	5名
10月21日	脱穀	2名
10月22日	おらっちゃんの森づくり	52名
11月5日	能登建設と合同保全活動	80名
11月17日	シイタケのホダ木の切り出し	3名
12月11日	シイタケのホダ木の移設	5名
12月23日	シイタケのホダ木移動	6名
	保全活動	284名

土曜日に実施している保全活動には、延べ284名の方が参加してくれました。10月22日に開催した東山中でのクヌギの植林事業も、お天気に恵まれ



ようには成長していません。12月3月の寒い時期と8月の酷暑を除く毎月第2・第4

多くの方に参加いただきました。その日は、金沢大学能登学舎の開設10周年記念事業もあり、記念植樹を実施するなど慌ただしい1日でした。



### 地球環境基金

### (つり) 助成事業

2016年度からの新たな取り組みとして、独立行政法人環境再生保全機構の地球環境基金つり環境ビジョン助成事業によ

る「能登の“里海”文化の継承と保全」を開始しました。①里海を楽しむ②里海を守る③里海を知るの3つを目標にかかげ、さまざまなメニューを用意しました。これまで里地・里山への取り組みも継続しながら、ようやく懸案となっていた里海へと歩を進めることができました。

7月31日

### おらっちゃんの 里海あそび

石川テレビの「りふれっしゅ」ツアー参加親子10組とともに、「渚あそび」を実施しました。蛸島漁港で釣り体験をするチームと、小泊灯台下の海でタコすかしをするチームに分かれ「いざ海へ」。思ったようには魚もタコも獲れませんでした。上野登起男さんが前日から灯台付近に仕掛けておいた「かご網漁」では、「フグだ」



みんなで「獲ったぞー」!

「タコがかかってくる」など、子供たちの歓声があがりそれぞれに海に親しむことはできたようです。

8月20日

### おらっちゃんの クリーンビーチ



土曜日の朝9時、珠洲市片岩

海岸のしおカフェ前で、地域住民の方や小中学校生、能登海上保安署員など

総勢32名が参加し、海岸清掃に汗を流しました。収集したごみは138kgで、その大半はプラスチック類でした。ハングル文字の漂着ごみもありました。参加者からは、「こういう活動から、ごみを捨てないで海を大切にしようとする心が養われるんだ」という声もあがり、これからも続けていかねばならないと思いました。



10月1日

### おらっちゃんの 里海釣り大会

珠洲市内の小学校に通う親子6組が参加し、小泊漁港で釣果を競いました。対象はキスとアブラメ限定でしたが、幸い釣果ゼロの親子はいませんでした。優勝は、アブラメ1匹とキス3匹を釣った木挽親子。18cmのアブラメを釣った橋本親子と、25cmのキスを釣った木挽親子が大物賞に輝きました。戦いを終えた後は、みんなで海岸清掃です。砂浜に「イノシシ親子」の足跡を見つけました。

鉢合わせにならなくて良かったです。能登学舎に戻り表彰式の後、へんざいもんのお母さんたちが用意してくれたお昼をいただきました。

ピッカピッカの魚たち



2〜3日おいてからいただくのが良いらしく、参加者はお持ち帰り用の入れ物を持参しての参加です。遠く高

恒例の「おさかなワークショップ」を開きました。



農林水産省認定おさかなマイスターの前野美弥次さんを講師に迎え、今年も

12月18日・2月11日  
おさかな  
ワークショップ

岡市から参加いただいたご夫婦もいて、地元から参加された方は「塩辛は家庭ごとに作り方が違うので、それを知るのが楽しみ」と話してくれました。

2回目は、2月11日(土・祝)に開催。メニューは、カワハギを捌いて肝サシをつくり、この時期が旬のタラで鍋料理です。初めに、なかなかうまく剥けなくてイライラするバイ貝の上手なむき方を習いました。この日は、漁師が仕事始めに安全を祈願するという神事「起舟祭」の日です。今年1年の豊漁を祈りながら、おいしくいただきました。



前野美弥次さん(前列左端)を囲んで

## サントリー 世界愛鳥基金事業

珠洲では「美すず」と名づけられたトキがたびたび飛来していた地域です。残念ながら現在は所在が確認されていません。

それでも「いつか珠洲の空にトキが舞ったとき、エサが豊富にあるように」と、2016年は魚道をいくつか設置し、ドジョウが池や田んぼに入りやすい環境を作りました。

このプロジェクトを始めた時から毎月、粟津でドジョウなどの生きもの調査も行っています。能登は野生のトキが生息していた、国内では最後の地です。再び、美しい姿を見たいものです。

## その他の活動紹介

3年目を迎えた森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業も、2016年度が最終年度です。山の持ち主の方の協力を得て、小泊保全林のエリアも拡大しました。そこからシイタケ栽培用のホダ木を切り出し、今年

の3月にはのと115の菌を植え付けます。来年には、たくさんさんの「のとてまり」が収穫されることでしょう。クヌギの植林事業を毎年秋に実施している、東山中の山林の整備もこの事業のおかげで続けていきます。保全林では新たな取り組みも始めています。巣箱づくり体験です。最初は、鉢ヶ崎ケビンの宿泊者向け体験イベントと

### 子どもゆめ基金事業

坂井理笑さんを中心に、独立行政法人国立青少年教育振興機構の「子どもゆめ基金」の助成を受けて、計9回の親子ワークショップを開催しました。

第一回 5月28日

「里山で音を聞こう」

第二回 6月5日

「里山で色を探そう」

第三回 7月2日

「里山で光を見よう」

第四回 7月3日

「ため池でジュンサイを探ろう」

第五回 10月23日

「里海でタコをすかそう」

第六回 11月26日

「里山で炭をつかってお茶をたてよう」

第七回 1月22日

「里山の恵み、お味噌を作ろう！」

第八回 2月19日

「冬のため池で生き物を観察しよう！」

第九回 3月4日

「里山でプレイパークをつくらう！」



して企画されたものですが、地元小学校の親子会のイベントとして利用され好評を博しています。作った巣箱は保全林の木に掛けました。子育てをする鳥の姿が早くみたいものです。



保全林横の畑では、トウモロコシを植えました。初めての試みでもあり、虫がつくなどまだまだ手探り状態でしたが、形が小さくても味はまずまずでした。成長過程で間引かれるベビーコーンもおいしくいただきました。今年こそ、姿形・味ともに最高のトウモロコシを収穫したいです。

編集後記：この1年を振り返るいい機会となりました。小さな組織ではありますが、いまある自然環境を守る活動が継続できることを願います。

### 入会のご案内

## おらっちゃんの活動に参加しませんか？

NPO おらっちゃでは会員を募集しています。正会員と賛助会員の2種類あり、正会員は運営にも携わることができます。賛助会員は活動を支援していただく方々です。能登を元気にする活動にぜひ参加してください。

個人正会員 年会費 5,000円 団体正会員 年会費 30,000円  
個人賛助会員 年会費1口 1,000円 団体賛助会員 年会費1口 5,000円

活動をご支援いただく方々からのご寄付も受け付けております。

振込先：ゆうちょ銀行

加入者名 特定非営利活動法人能登半島おらっちゃの

記号・番号 00710-9-45126

金融機関コード 9900 店番 079

預金種目 当座 店名 ○七九店（ゼロナナキユウ店）口座番号 0045126

〒927-1462 珠洲市三崎町小泊33-7 金沢大学能登学舎1F

TEL/FAX: 0768-88-2528 Mail: info@satoyama-satoumi.com

Homepage: http://www.satoyama-satoumi.com



理事長 加藤 秀夫



地球環境基金

独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて製作しました。

